

令和3年度 学校評価表

島根県立松江商業高等学校

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値) A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦、<100 C(できていない):<70

評価計画				自己評価					学校関係者評価					
評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント	
								アンケートは1月統計は2月						
学習指導	学力の向上	望ましい学習習慣の形成	教務	a. 授業の始めと終わりの時間厳守とあいさつの徹底 b. 学習規律の確立を目指した授業づくり	①わたしは、授業に積極的に取り組んでいる。	90%	アンケート(生徒②)	89%	99%	B	(1)①は昨年度より1ポイント上昇し、②は昨年度から4ポイント低下した。授業開始のあいさつに始まり、生徒への発問や声掛けなどを通して、生徒が今以上に積極的・主体的に授業に取り組む雰囲気作りをし、終わりのあいさつで時間通りに終わる授業を教員全員で取り組んでいきたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業のあり方について高く評価したい。保護者、学校評議員だけでなく、教員を目指す大学生にも見学の機会をいただけた。大学との連携という点からも、今後もぜひ継続していただきたい。 公開授業の際、ICTを活用し、生徒の理解が深まるような授業を拝見した。自己評価の説明にもあったように、ICT利用を目的とせず、利用することで教育的効果につなげていただきたい。 授業に対する積極性が昨年より上昇していることを高く評価する。 今後の方策継続による上昇安定を期待する。 適切な課題に取り組む意識が素晴らしい。自主性も身につけていると感じる。 ICT環境を積極的に活用していることが伺える。昨年からの上昇は評価する。今後は1人1台の端末となり今よりも工夫が必要となると思うが、更なる授業力向上を目指して頂きたい。 全体的に生徒の授業満足度が高いことは評価できる。 リモート授業や動画配信などwithコロナの体制を今後も試行錯誤しながら、ICT機器の活用について更に取り組んでもらいたい。 コロナ禍での学習指導に学校としても工夫しておられ、適切な課題や家庭学習の習慣化など評価できる。 今後ICTの利活用含め、生徒の学習を支援する体制の充実を計っていただきたい。 ICT環境の整備が全てではないが、ICTを利用して生徒の学びの機会を極力確保しようとしている。 課題に対して家庭で取り組んでいる姿勢は評価できる。 現在のコロナ禍において先生方の指導も大変だと感じる。さらに来年度は新入生が一人1台の端末を持つとのことなので、向上となるよう期待したい。 ICT、オンラインと、ここ数年めまぐるしく変わっているが、記述にもあったようにICTを授業の中で使いこなすこと(効果のある使い方をすること)が重要だと思う。 県立大学とのかわりの中で、バーチャル国際交流を体験したことも有益だったことと思う。 生徒も指導する先生もしっかりと実行されている。 「目標意識の育成」を掲げられている中、チャレンジの出来る教育環境を整える事も必要に思う。現在の1年から2年の時のクラス変更後、2年から3年時は変更なしと伺う。手続きでお手数の部分もあるとは思いますが、挑戦可能で更なる高い目的意識の育成の方法としての1つの案として、2年から3年次変更も出来る事が学校方針に近づくと思う。 	
				a. 適切な課題による家庭学習の習慣化	③わたしは、授業で出される課題や、検定試験に向けた課題に、家庭できちんと取り組んでいる。	80%	アンケート(生徒③)	86%	108%	A				(2)③は昨年度と同じ、④は1ポイント上昇した。出された課題にきちんと取り組む生徒は多いので、適切な質・量の課題を与え取り組ませる指導を、引き続き徹底していきたい。
				④生徒に家庭での学習を促すよう、教科指導や課題を工夫した。	80%	アンケート(教員①)	80%	100%	A	(3)⑤は1ポイント上昇し、⑥は昨年度と同じ、⑦は10ポイント上昇した。各教室にICT環境が整備されて3年が経ち、コロナ禍の中でリモート授業となる恐れもあり教員の意識は確実に上がったといえる。ICTを使うことが目的ではなく、ICTを利用することで生徒の理解が深まるような授業を各教科で研究して実践していきたい。来年度は1人1台端末を持つ新入生を迎える。さらなる授業力向上と授業改善に取り組んでいきたい。				
	教員の指導力の向上	a. 研究授業、公開授業等の実施 b. 生徒による授業評価の実施 c. ICT環境の活用		⑤先生は、わかりやすい授業や、生徒自身が考える授業づくりに努めている。	90%	アンケート(生徒⑩)	87%	97%	B	(3)⑤は1ポイント上昇し、⑥は昨年度と同じ、⑦は10ポイント上昇した。各教室にICT環境が整備されて3年が経ち、コロナ禍の中でリモート授業となる恐れもあり教員の意識は確実に上がったといえる。ICTを使うことが目的ではなく、ICTを利用することで生徒の理解が深まるような授業を各教科で研究して実践していきたい。来年度は1人1台端末を持つ新入生を迎える。さらなる授業力向上と授業改善に取り組んでいきたい。				
		⑥授業アンケート結果に基づき授業改善に取り組んだ。		90%	アンケート(教員②)	87%	97%	B	(3)⑤は1ポイント上昇し、⑥は昨年度と同じ、⑦は10ポイント上昇した。各教室にICT環境が整備されて3年が経ち、コロナ禍の中でリモート授業となる恐れもあり教員の意識は確実に上がったといえる。ICTを使うことが目的ではなく、ICTを利用することで生徒の理解が深まるような授業を各教科で研究して実践していきたい。来年度は1人1台端末を持つ新入生を迎える。さらなる授業力向上と授業改善に取り組んでいきたい。					
		⑦ICT環境を活用した授業実践に取り組んだ。		80%	アンケート(教員④)	74%	93%	B	(3)⑤は1ポイント上昇し、⑥は昨年度と同じ、⑦は10ポイント上昇した。各教室にICT環境が整備されて3年が経ち、コロナ禍の中でリモート授業となる恐れもあり教員の意識は確実に上がったといえる。ICTを使うことが目的ではなく、ICTを利用することで生徒の理解が深まるような授業を各教科で研究して実践していきたい。来年度は1人1台端末を持つ新入生を迎える。さらなる授業力向上と授業改善に取り組んでいきたい。					
教育環境の整備	生徒の学習を支援する体制の充実	a. 授業時間の確保 b. 個別指導、補充授業の実施	⑧曜日変更などによる授業時数の確保や、補習計画立案などの個に応じた指導は適切であった。	90%	アンケート(教員⑤)	87%	97%	B	(4)⑧は5ポイント低下した。昨年度は休校になった期間の授業数を取り戻す取り組みが高く評価されたが、今年度はほとんど通常通りだったため元に戻ったといえる。一昨年度よりは5ポイント上昇しており、引き続き授業時数の確保、個に応じた指導を適切に行っていただきたい。					
特色ある学校	商業教育の充実	資格取得の支援	商業	a. 検定補習、合宿の実施 b. 検定ロードマップの作成	⑨3年生の全商検定1級3種目以上取得率	40%	統計資料	36%	90%	B	(5)全商検定1級3種目以上の取得者は65名。そのうち、1級6種目取得者5名、5種目取得者10名、4種目取得者は17名だった。また、日商簿記2級、基本情報技術者試験等でも合格者を出すことができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 「だんだんフェスタ」の中止はやむを得ない判断だが、コロナ禍が長引くことをふまえて、今後はオンライン開催等、別の方法を検討してみようか。 資格取得について、受験機会が少ないなかで先生方の努力が伺え、高く評価したい。 社会人になって大きな糧になる資格の取得は商業ならではの価値があると思う。欲を言えば社会での具体的な必要性をもっと生徒が認識し更なる取得率UPに繋げて欲しい。 ビジネスマナーを学び挨拶、礼儀の大切さが実感できていることは社会人を目前に貴重な体感だと感じる。商業での気持ち良い挨拶も高い意識を感じる。 だんだんフェスタが2年も中止になり残念でならない。生徒にとって社会人へのステップアップとしても貴重な経験と思えますので今年度は開催出来ることを願う。 「松商だんだんフェスタ」が2年連続コロナ禍で止むを得ず中止になったが、生徒、保護者の肯定的な評価、地域からの期待も大きい行事でもあり、来年度は新たに創意工夫され、充実したフェスタになることを期待したい。 専門科目の基礎・基本をしっかり習得させ、高度な資格を持ち地域社会に貢献できる人材の育成に努めてもらいたい。 資格取得で多くの成果を出された生徒、指導された先生方の努力に敬意を表したい。 商業教育の重要性は年々高まっていると思う。各種検定に向けた取り組みを今一度再確認して取得率の向上をお願いしたい。 「松商だんだんフェスタ」の中止を受け、それに対して学校としてのフォローはどのようにされたのか、何かほかの取り組みをされたのか説明が必要ではないか。 コロナ禍もあり思うように行事を行えなかった点が残念である。 ビジネスマナーの重要性を理解出来ていない生徒もいるように見受けられるので、重要性を指導して欲しい。 だんだんフェスタは貴重な体験の機会だが、中止はやむを得ない。来年は開かれるような年になっている事を願っている。 指輪デザインを考えるとという課題は斬新でおもしろいと思った。結婚式場での体験なども、とても夢のある学習である。ごはんのおともセット企画もよかった。 マナー講座は商業教育のある程柱となる部分だと思う。今後も大事にしてほしい。 アンケート結果が低い。だんだんフェスタは形を変えて実施する必要があるのでは。 松江の方針にもある様、他校との連携(南校と商業、その他同商業、他県の高校など)は広い視野と魅力アップに繋がると思う。 	
				a. ビジネスマナー指導の充実 b. 「松商だんだんフェスタ」の充実	⑩ビジネスマナー指導は自分にとって役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑫)	85%	94%	B	(6)生徒は「挨拶」「礼儀」の大切さが実感できている。今後も場に応じたマナーや対応力が身につくように指導を続けたい。松商だんだんフェスタについては、規模を縮小して計画していたが、実施の前に感染が拡大し中止とした。他校とは生徒の人数や規模も異なり、リスクも大きいことからやむを得ない判断であった。			
				体験的学習の充実	⑪「松商だんだんフェスタ」は有意義である。	90%	アンケート(生徒⑧)	89%	99%	B	(6)生徒は「挨拶」「礼儀」の大切さが実感できている。今後も場に応じたマナーや対応力が身につくように指導を続けたい。松商だんだんフェスタについては、規模を縮小して計画していたが、実施の前に感染が拡大し中止とした。他校とは生徒の人数や規模も異なり、リスクも大きいことからやむを得ない判断であった。			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	望ましい生活習慣の育成	生徒	a. 身だしなみ指導の計画的実施 b. 全教職員と生徒会による登校指導と適切な声かけ c. 校内外でのマナー(通学マナー)指導の充実 d. 校内外での挨拶の励行	⑫毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	統計資料	98.7%	99.7%	B	(7)教員による朝の登校指導(あいさつ、登校マナー)で、生徒の様子を観察しながら継続的に声かけを行った。今年度は、登校指導への教員の参加率がさらに上昇し、より多くの目で生徒の様子を観察することができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶ができ、身だしなみも整っている生徒が多く、高く評価できる。今後も期待したい。 出席率、非遅刻率について当たりまえではあるように思われるが、高く評価する。毎朝欠かさずの挨拶と生徒の変化を感じてくださりありがたく思う。また、遠方から通学する生徒も多い中、非遅刻率についても高く評価したい。生徒の学業への高い意識と身だしなみの意識の高さが伺える。 生徒の速やかな情報共有は非常に大切だと思う。今後も情報の扱いには注意を払い生徒への支援をお願いしたい。 清掃は学ぶ場のより気持ち良い環境づくりに必須である。今後も積極的な美化活動を継続して欲しい。 校内外においても松商生として自覚を持ち行動できる様、引き続き挨拶、ルール、マナーの遵守について、学校生活全体を通して身につけさせるよう指導に取り組んでもらいたい。 教員による朝の登校指導、声かけ大変良いことだと思う。多くの目で生徒の様子を観ることは非継続してほしいと思う。 登校指導への取り組みが素晴らしい。 コロナ禍の不安定な状況で遅刻が減ったのは、先生方の声掛けの賜だと思う。 先生に悩みを相談するのは、先生方の努力とは別に難しい点があると思う。ゆえに情報共有はとても大切だと思うので、気が付いた事は共有していただきたい。 ワクチン接種について、様々な理由で受けない(られない)ことがあること等、丁寧にタイミングよくホームページで伝えておられよかった。 清掃活動、積極的に取り組んでいる。 美化活動の推進を掲げ中、校内以外の地域美化を生徒達が考え、行動が出来る指導を進めて頂きたい。 	
				⑬非遅刻率	99%	統計資料	99.6%	101%	A	振る舞いや身だしなみについても、計画的に身だしなみ指導を行い、成果は感じられる。一部気になる生徒もいるので、一過性ではなく継続的な指導を行ってほしい。引き続き生徒部と学年部で連携しながら全教員で取り組んでいく。				
				⑭わたしは、高校生らしい身だしなみを心掛けている。	95%	アンケート(生徒④)	93%	98%	B	(8)さわやか委員会が話し合った生徒について、職員会議で報告をして情報共有を行った。今後も必要に応じて情報の共有に努め、生徒の支援を行っていく。				
	健康管理・美化活動の推進	保健		a. 健康管理に関する適切な指導 b. 教育相談、生徒支援の委員会(さわやか委員会等)の充実 c. 清掃指導の徹底	⑮配慮を要する生徒の情報を共有し、協力して支援を行なうことができた。	90%	アンケート(教員⑫)	88%	98%	B	(8)さわやか委員会が話し合った生徒について、職員会議で報告をして情報共有を行った。今後も必要に応じて情報の共有に努め、生徒の支援を行っていく。			
⑯わたしは、清掃活動に積極的に取り組んでいる。			95%	アンケート(生徒⑥)	92%	97%	B	(9)今年度は生徒保健委員会が中心となって、清掃状況点検や清掃用具点検を行い、積極的に美化活動を推進することができた。今後も校内美化を推進していく。						

令和3年度 学校評価表

島根県立松江商業高等学校

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値) A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦、<100 C(できていない):<70

評価計画						自己評価					学校関係者評価		
評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント
								アンケートは1月統計は2月					
生徒指導	人権・同和教育の推進	人権・同和教育の体制作り	図書人権教育・生徒	a. 生徒理解と信頼関係の確立	⑰学校では、面談などを通して生徒理解を行う努力がなされている。	90%	アンケート(生徒③)	85%	94%	B	(10)教職員に悩みを相談できる雰囲気があると答えた生徒が少ない。生徒から気軽に相談できる雰囲気を作るため、平素より教職員から生徒へ声をかけたり、生徒の変化をよく観察する等、信頼できる関係を築く努力が必要である。また、教職員にとって「当たり前」でも、生徒にとっては「頑張って取り組んだ結果」であることも少なくない。教職員の方がより一層意識して生徒自身が自尊感情を高められるよう生徒理解に努めていく必要がある。	B	・引き続き、生徒が悩みを相談できるような雰囲気づくりを心掛けてもらいたい。 ・何でもご面談いただければ有難い。その一方で生徒がしつかり質問にこたえているか気になっていた。 ・笑顔で気持ち良い挨拶のような生徒の心が開く信頼関係を構築頂きたいと思う。 ・メルマガ研修など工夫を感じる。今後も更なる工夫により継続的な研修を実施してほしい。 ・生徒と教員の信頼関係の構築を更に深めてもらいたい。 ・悩みを相談できる雰囲気をいかに高めていくのか、教職員と生徒の信頼関係をさらに築く努力が必要ではないか。 ・現在の状況では自己評価が下がる生徒も出て来そうに思える為、先生方の観察する力は重要だと感じる。 ・面接等しつかり行われている。 ・ネット社会あたり前の時代においてSNS、ネットトラブルの心構え、対応方法などの基礎教育が出来る環境整備が必要と思われる。
				b. 人権・同和教育に関するLHRの指導計画立案	⑱学校には、教職員に悩みなどを相談できる雰囲気がある。	70%	アンケート(生徒④)	64%	91%	B			
				c. 実践をとまなう道徳教育の推進	⑲人権同和教育に関する教職員研修は有益であった。	90%	アンケート(教員②)	80%	89%	B	(11)次年度は、メルマガ研修に加え、放課後の研修を複数回実施することにより研修の充実を図りたい。		
進路指導	進路希望の実現	進路の実現のための支援体制作り	進路指導	a. 一人ひとりに応じた進路指導(進学補習・小論指導・面接指導等)	⑳在学中に就職先を内定する生徒の割合(内定率)。	100%	統計資料	97%	97%	B	(12)就職、進学ともに100%に達していないが、現在も進路決定に向けて生徒の進路希望にあった企業、学校への合格に向けて努力を続けている。2年連続で就職希望者の割合が減少しているが、昨今の社会状況の中で就職、進学での可能性を十分に理解した上での進路選択を行い、ミスマッチをなくすように応募前見学、進学説明会等の活用を行っていききたい。	A	・引き続き、生徒の希望にあった進路指導をお願いしたい。 ・就職、進学ともに100%に向けた活動は素晴らしい。昨今の厳しい社会状況と多様化しているニーズに柔軟に対応していることは高く評価出来る。 ・進路についてマッチングを意識した進路指導も評価できる。 ・地元企業説明会や進路座談会(卒業生)、進路説明会等とおして進むべき進路を、よりリアルに想像し考える機会となっていた。 ・就職、進学共にコロナ禍で今年度も大変な年であったと思われるが、生徒の進路実現に向けていろいろな企画を通して適切な指導に努めている。 ・地元企業に就職する生徒が多い印象が一般市民の方々にもある。「地域の宝」であるそのような生徒を、学校OBや説明会等さらに充実して皆で支え大切に育ててゆきたい思いである。 ・コロナ禍の中、目標を見失わずに取り組んでいる。 ・不安定な社会状況の中での先生方の努力は評価出来る。 ・コロナの感染状況を見ながら、リモート、対面をタイミングよく設定して進路についての学びの機会をもたれたことがわかった。 ・早期より寄添い話し合いを行い高い目標設定を継続してほしい。
				b. 生徒および保護者への進路情報(進路の手引・進路だより・進路行事等)の提供と活用	㉑在学中に進学先を決定する生徒の割合(合格率)。	100%	統計資料	99%	99%	B			
		c. ハローワーク、松江市との連携による求人開拓		㉒学校から提供される進路情報は、自分の進路を考える上で役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑩)	91%	101%	A	(13)今年度も地元企業説明会(52社参加予定)や進路座談会(卒業生)、進路講演会などを通して、地域の経済状況、地元企業、就職・進学先での様子、キャリア形成のあり方などを知り、将来について考える機会を設けた。反面、コロナ禍で企業や学校に実際に見学に行く機会が制限されていることが課題である。			
特別活動	豊かな心の育成と情操の涵養	部活動の活性化	生徒	a. 各自の目標達成への支援	㉓部活動加入状況	90%	統計資料	91%	101%	A	(14)運動部・文化部ともに部活動は盛んであり、部活動への強い参加意欲をもって入学する生徒も多い。部活動を通じて豊かな人間形成を図りながら、将来の進路に向けて自己実現が図れるよう支援していく。今年度もコロナの影響で日頃の活動や各大会の運営等に様々な制限がかけられた。しかし、生徒たちは目標を見失うことなく、周囲の様々なサポートもあり最後まで部活動をやり遂げることができた。	A	・各種大会が中止になる中で、意欲的に部活動に取り組めた生徒が多かったこと、感染防止策を図りながら球技大会、瑞木祭等学校行事を実施できたことを高く評価したい。 ・部活動が盛んであり、部活動を通じて豊かな人間形成が進路にも生かされていると高く評価する。またコロナの影響により制限がある中でも教職員、保護者の支援も含め各方面の協力もあり生徒は最後までしつかりやり遂げることが出来た。次のステージに羽ばたく自信になったと思う。 ・アンケートによれば概ね本がそろっていることを認知しているようだ。㉔また告知については概ね見えていないと感じる。昨今活字離れは課題ではあるが、読書による知識の向上や文章読解力の重要性など様々な恩恵が多義にわたることについて周知徹底をお願いしたく思う。進路を考える上でも役立つと思うので、読書の必要性をもっと感じて欲しいと思う。 ・この昨今の難しい状況の中、積極的に活動出来ていたと思う。取り組みの差については今後の運営に活かして欲しいと思う。 ・コロナ禍で多くの部活動に制約がある中、各種の大会で生徒の活躍が見られた。 ・生徒と図書との距離を近づける。本を手にする工夫を検討してもらいたい。 ・読書週間は図書館利用とは関係なく、本人の意識が作用されると感じる。何でも良いので活字を読み込む大切さを指導していただければ有難い。 ・部活動のモチベーションが保たれるよう、さらに目標に向けて取り組んでもらいたい。 ・活発な活動をしていることが見て取れる。 ・コロナ禍の中でも知恵を出し、成功させた意義は大きく、今後にも必ず役立つと考えられる。 ・インターハイのリモート応援、何とかできることを考えようという気概を感じ驚いた。壮行会、生徒総会なども同様である。 ・球技大会、学園祭等大変良い雰囲気で行われた。 ・部活動の役割は非常に高く、帰宅部生徒0を目指し、大小かわからない目標設定の環境づくりが必要と思われる。
		読書習慣の育成		a. 読書センターとしての役割を果たす	㉕図書館には読みたい本や調べ物に適した本が揃っている。	70%	アンケート(生徒⑨)	69%	99%	B	(15)受け入れた新刊本の宣伝の活発化をはかりたい。また、「館外展示」等の方策を再考し生徒の興味関心を高める工夫を継続していきたい。		
		b. 学習・情報センターとしての役割を果たす		㉖「毎月の図書館便りや掲示物」「館外展示」は調べ学習や読書への関心を高める上で役に立つ。	60%	アンケート(生徒⑨)	56%	93%	B	(16)コロナ禍でも、感染防止対策等を図りながら、日程や実施内容を変更して対応し、生徒会の生徒、担当教員の尽力で球技大会、瑞木祭等を成功させた。各種委員会は、取り組みに差が生じた。委員会で行事内容の立案と計画を検討すべきたった。生徒会執行部から各種委員会へのより積極的な働きかけが必要である。			
信頼される学校	開かれた学校づくりの推進	保護者との連携の推進	総務	a. 保護者面談の実施	㉗学校は、文書・ホームページ等を通じて適切に情報を提供している。	90%	アンケート(保護者④)	83%	92%	B	(17)ホームページへの掲載を頻繁におこない迅速な情報提供に努めた。また、PTA会報は毎学期発行しPTAの活動や学校の様子を伝えた。中止となった事業も多い中、オンラインシステムを利用した実施を模索したものもある。コロナ禍における活動のあり方について今後も検討が必要である。担任による生徒・保護者面談等も一層丁寧に実施し、学校と家庭の連携を推進していく。	B	・学校HPの更新を頻繁に行ったこと、オンラインシステムを利用した事業実施等を高く評価したい。 ・ボランティア活動の自粛はやむを得ないと判断する。 ・敏速なホームページの更新とメールでの緊急配信がしつかりリンクされていた。災害時による判断について若干遅くなった事例があったので意思決定について迅速に判断されたい。 ・今後ともより綿密な連携をお願いしたい。 ・今年度も実施が厳しかった為、来年度に実施されることを期待する。 ・昨今のネット環境においてSNSをはじめとする場での誹謗中傷について法律が整備されたものの、より複雑化されている。その為、外部講師を招いての情報モラル研修実施は生徒にとっても教職員にとっても非常に大切であり評価される。今後も継続的に実施されることを希望する。 ・今後も迅速なご対応をお願いしたい。 ・ホームページは学校での取り組みや行事の様子が常に更新され充実している。 ・校舎周辺に設置されている掲示板を活用し、周辺地域住民、車の運転者等に松商のPRをされてはどうか。 ・情報モラル研修は、卒業後のためにも重要と思われるので今後も継続して研修会に力を入れてもらいたい。 ・地元企業とも連携した取り組み等行えば、更に学校の価値や存在意義が市民にも広がるのではないかと。そしてその事を情報発信して学校の理解を深めてもらうことが出来るのではないかと。 ・コロナ禍の中、やれる限りのことを行っている。 ・ホームページはその学校のことを知る大きな情報発信の場であるので今後もぜひ情報発信に力を入れてほしい。 ・情報モラルは今後も重要性を増していくと考えられるので、研修を受けると同時に理解しておくことが必要だと思う。 ・いろいろな場で直接つながることができなかったのは、生徒たちにとっても残念だったと思う。ボランティア活動ももっとしたかったと思うが、ブルタブやボトルキャップ集め、清掃などがんばったのではないかと。 ・モラルセキュリティコンクルールの標語を見たが、とても面白かった。 ・コロナ等で評価は難しい。 ・守りと攻めを分け、出来る事から1つ1つコツコツする事が信頼につながる。
		地域との連携の推進		a. 地域に貢献する活動への積極的な参加	㉘わたしは、今年度、ボランティア活動に参加した。(部活動や生徒会単位の地域清掃などの活動も含む)	40%	アンケート(生徒⑧)	16%	40%	C	(18)今年度もコロナウイルス感染防止の観点から多くのボランティア活動が中止または延期となった。学校で行う清掃ボランティアは、一般生徒からも募集したが、主に部活動単位での実施となった。乃木駅駐輪場周辺や校地周辺の清掃活動であったが、参加した生徒は一生懸命に取り組んでいた。来年度環境が整えば、より積極的に一般生徒にも参加を促していきたい。		
		危機管理意識の向上		危機管理体制の確立	保健・生徒	a. 危機管理に対する校内研修の実施	㉙情報モラルの教職員研修は十分行われた。	80%	アンケート(教員⑨)	88%	110%		
				b. 環境整備の充実	㉚安全点検や清掃用具の点検・整備が行われ、環境整備が適切に行われた。	90%	アンケート(教員④)	90%	100%	A	(20)保健部と事務局で連携し概ね整備ができた。今後もより迅速に対応していきたい。		